



農大二中進路通信

令和7年2月26日(水)
第18号 農二進路指導部

残すところ今学期も1か月2月



今年度の最後の期末テストも終わり、ほっと一安心、残り1か月で今年度も終わりを迎えます。3学期は、1年間の振り返りと次年度への準備をする大切な時期です。うまくいったこと、思うようにいかなかったこと、それぞれを振り返り、自分の成長を実感するとともに、新たな目標を考えてみてください。特に、進路については、まだ先のことだと思っている人もいるかもしれませんが、日々の学びや経験がすべて未来につながっています。今の努力が、数年後の自分を大きく成長させることを忘れず、一步一步前進していきましょう。

話は変わりますが、期末テスト前に、ある生徒と話しました。「どうせ数学を勉強してもわからないから勉強しても無駄です」と言っていたのですが、その生徒と話しているときに、サーカスの象を思い出しました。

みなさんは、サーカスの象がなぜ逃げ出さないのかを考えたことがありますか？象はとても力が強く、大人になれば簡単に杭を引き抜くことができるはずですが、サーカスの象は杭につながれたまま、逃げようとしません。その理由は、「学習性無力感(Learned Helplessness)」という心理現象によるものだとされています。象は子どもの頃、頑丈な鎖で太い杭につながれます。最初は何度も逃げようと試みますが、杭が抜けず、鎖も外れないため、次第に「自分には逃げられない」と学習してしまいます。成長すると、十分な力を持ち、簡単に杭を引き抜けるはずなのに、「どうせ無理だ」と思い込んでしまい、逃げようとすらしなくなるのです。この現象は、心理学で「学習性無力感」と呼ばれ、人間にも当てはまります。たとえば、勉強やスポーツで何度も失敗を経験すると、「どうせ頑張っても無駄だ」と感じ、新しい挑戦を避けてしまうことがあります。本当は努力すればできるかもしれないのに、過去の経験によって自分の可能性を狭めてしまうのです。

この話は、みなさんの進路選択にも深く関係しています。これまでの経験の中で、「自分には向いていない」「どうせ合格できない」と決めつけてしまったことはありませんか？しかし、それは本当に無理なのでしょうか？もしかすると、サーカスの象のように、過去の経験が「できない」と思い込ませているだけかもしれません。

「難しそうだから」「やったことがないから」といった理由で選択肢を狭めるのではなく、「やってみたら意外とできるかもしれない」という気持ちを持ってみましょう。実際、多くの人が「無理だと思っていたけど挑戦したらできた」という経験をしています。自分の可能性を信じ、一歩踏み出すことで、新しい道が開けるかもしれません。

今年度も残りわずかとなりました。進級を前に、自分がこれまでどのような思い込みを持っていたか、振り返ってみるのもよいでしょう。「本当はできるのに、できないと思い込んでいないか？」ぜひ自分自身に問いかけ、次のステップへと進んでください。

新しい挑戦を恐れず、自分の可能性を信じて進んでいきましょう！

東京研修

2月5日、中部部1・2年生は東京研修に行ってきました。中学1年生はスカイツリーの構造見学を行い、展望台と塔体を見学しました。塔体見学では、現地ガイドの方から「押上」という地名の由来や周辺の歴史について詳しい説明を受けた後、実際に塔体を間近で見ることができました。また、スカイツリーの構造についても学びました。三角形から円形へと変形するデザインの工夫、「そり」と「むくり」の技術、心柱の仕組みなど、普段は知ることのできない建築技術に触れることができ、興味深い学びとなりました。さらに、展望台からの景色は素晴らしく、東京の街並みを一望しながら感動を味わいました。その後は班別行動(浅草など)を実施し、計画的に行動することの大切さや、団体行動の難しさ・重要性を実感しました。



中学2年生はキャリア研修を行いました。午前中は日本科学未来館を訪れ、最新のテクノロジーについて学び、人類の過去と未来について学習し、未来社会への理解を深めました。午後は職業調べ学習の一環として、クラスごとに東京証券取引所、ヤマトクロノゲート、森・濱田松本法律事務所を訪問しました。どの職場でも中学生の質問に対して分かりやすく丁寧に回答していただき、非常に貴重な学びの機会となりました。今年度は、「働くとはどういうことか」をテーマにLHRでの話し合いや社会人へのインタビューを行ってきましたが、実際に職場を訪問し、働く人の話を直接聞くことで、より具体的な職業観を持つことができました。あるクラスはヤマトクロノゲートを訪問しましたが、最新テクノロジーを活用した物流システムの仕分け技術に驚かされました。また、時代とともに変化を遂げながらイノベーションを起こし続けてきたクロネコヤマトの歴史に触れ、企業の挑戦する姿勢や改革の精神を学びました。この経験を通じて、現在進めている探究学習の意義を改めて実感する機会となりました。



NI探究班別発表会

2月上旬にNI探究の班別発表会が行われました。1年生は探究の計画について発表し、2年生は約1年半にわたる探究の成果を発表しました。どの班も、自分たちなりに試行錯誤を重ねながら探究を進め、堂々と発表することができました。今回、多くの班が課題に対する解決策を提案しましたが、実践には至らなかったようです。しかし、探究の本質は、課題を見つけ、情報を集め、分析し、自分たちなりの結論を導き出すことにあります。その過程では、思うように進まず、振り出しに戻ることもあるでしょう。しかし、それこそが探究の醍醐味です。必ずしもうまくいくことが正解ではなく、試行錯誤を重ねることが大切なのです。その意味で、どの班も自ら問いを立て、情報を分析しながら真剣に解決策を考え抜きました。この経験は、今後の探究活動の大きな糧となるはずです。ぜひ、来年度はさらに一歩前進し、新たなステージへと挑戦してほしいと思います。NI探究のスケジュールは前回も掲載しましたが、改めて載せておきますので、ご確認ください。

<NI 探究 班別ポスター発表会>

*Group1 と Group2 は、各班を前半発表組と後半発表組に分けたもの

9:10~9:50(40分)	中学1年全員、Ⅲコース1クラス発表、2年Gコース発表
9:10~9:30	Group1 (前半)
9:30~9:50	Group2 (後半)
10:00~10:40(40分)	中学2年全員、Ⅲコース1クラス発表、2年Gコース発表
10:00~10:20	Group1 (前半)
10:20~10:40	Group2 (後半)
10:55~12:40(105分)	代表者による全体発表会 (一覧表は下記)

今後の予定は以下の通りです

2月27日(木) NI DAY(NI探究I発表会)発表準備②

3月3日(月)までに発表資料を teams で提出をすること。
提出後に担当者が A3 を4枚サイズにコピーし、Active Learning Room に置いておくので、3月8日までに右図のようにポスターサイズに貼り付ける。つなぎ合わせる時はテープを後ろから張ると見栄えがいいはず。また、張り付ける際に、ちょっとした余白があるので、うまくつなぎ合わせてください。

①	②
③	④

*各自、実際にポスターを使って、発表練習を行う。

また、それぞれの班の中で特に素晴らしかった班に関しては、3月のNI DAY IIの全体発表会での発表となります。以下はその代表班の一覧です。まだ、順番は決まっていないので順不同ですが、2年生の代表班を見ると昨年度の代表班と同じ班が見られ、昨年から引き続きがんばってきた感があります。代表班はまた3月発表を頑張ってください。とはいえ、他の班もすべてポスター発表を行いますので、3月3日までに各班ポスターを作製して、提出をしてください。

Programming Festa

2月13日(木)、群馬大学発の企業「GUDi(グッドアイ)」と連携したプログラミングイベントを開催しました。GUDi は、群馬大学理工学部の 板橋英之教授 が取締役会長を務める企業で、最先端の技術を活かした教材開発を行っています。

今回は、人工知能(AI)などで使われるプログラミング言語「Python」を学び、実際に装置を動かすことに挑戦しました。学年をまたいだ班で協力しながらプログラミングに取り組み、午後には各教室でコンペティションを実施し、優秀賞を決定しました。

生徒たちは、車の動きをプログラムで制御する課題に挑みました。「鋭角を曲がるための数値調整が難しかった」「速すぎると脱線し、遅すぎてもダメなので調整が大変だった」「モーターが動かず苦戦した」など、試行錯誤を繰り返す場面も多く見られました。一方で、「チームで意見を出し合いながら改善でき、とても貴重な経験だった」「カーブ時のタイヤの速さを工夫し、確実に曲がれるよう調整した」といった 試行錯誤の中での成長や学び も感じられました。プログラミングは、これからの時代に求められる重要なスキルの一つです。このイベントを通じて、論理的思考力や課題解決力、チームワークの大切さ を実感できたのではないのでしょうか。

今回の経験を活かし、未来に向けた学びを深めていきましょう！



今後の予定

3月 1日(土)	高校卒業式 中等部自宅学習日
3月 4日(火)~5日(水)	中2 伝統文化学習(茶道) クラス別
3月 5日(水)	中1 伝統文化学習(華道)
3月11日(火)	球技大会
3月13日(木)	中等部自宅学習日
3月15日(土)	NI DAYⅡ NI 探究成果発表会
3月17日(月)	弁当の日
3月22日(土)	修了式